

Lesson 66

🔑 to 不定詞の名詞用法：主語と be 動詞の補語

「…する」「…である」という意味の「動詞(句)」を「…すること」「…であること」という「名詞句」に変えるには「**to 動詞の原形**」とします(これを「to 不定詞の名詞用法」と呼びます)。「動詞(句)」は主語、目的語、補語などに置くことができますが、to を付けて「名詞句」にすれば可能になります。例えば、love (愛する) や suffer (苦しむ) という動詞をそのまま主語や be 動詞の補語に置くことはできませんが、次のように、to love (愛すること)、to suffer (苦しむこと) という名詞句にすれば可能になります。

① Steve said to Mike, "To love is to suffer."

⇒ Steve は言った・Mike に「愛することは・である・苦しむこと」と。

→ Steve は Mike に「愛するとは苦しむことだよ」と言った。

同様に、do two things at once (2つのことを1度に行う) という動詞句と do neither (どちらも行わない) という動詞句に to を付けて「名詞句」に変えれば、次のように、主語と be 動詞の補語に置くことができます。

② To do two things at once is to do neither.

⇒ すること・二つのことを・一度に・は・すること・どちらも無を。

→ 一度に二つのことをすると、どちらもできない。(二兎を追う者は一兎をも得ず)

次も、「to 動詞の原形」が名詞句として主語に置かれた例です。

③ To use a ladder on your own is dangerous.

⇒ 使うこと・はしごを・自分一人で・は危険だ。

→ 自分一人ではしごを使うのは危険です。

③の例文は主語 (To use a ladder on your own) が少し長く、述語動詞 (is) までに距離があるため、結論が把握しづらい文です。このように、「to 動詞の原形」を含む「主語」が長い場合は、「It」という「仮の主語」を置いて主語と述語を早く把握できるようにして、it が指す「to 動詞の原形」を文末に移動させるという方法がよく用いられます。

To Vb is ...

(V..... することは…だ)

It is ... to Vb

(V..... することは…だ)

例文③の場合は、次のようになります。

④ It is dangerous to use a ladder on your own.

⇒ それは危険だ・使うことは・はしごを・自分一人で。

→ 自分一人ではしごを使うのは危険です。

この It (形式語の it) の使い方は、Chapter 16 で詳しく説明します。

● VOCABULARY

☐ **suffer** [sʌfə]

☐ **at once** [wʌns]

☐ **neither** [ni:ðə | nái-]

☐ **ladder** [lædə]

☐ **on one's own**

☐ **dangerous** [deɪndʒərəs]

☐ 苦しむ、＜痛み＞を経験する、＜損害＞を被る

☐ 同時に、一度に、直ちに

☐ 代 どちらも[両方とも]無、どちらも[両方とも]…ない (* Lesson 13 ③ を参照)

☐ 名 はしご、(成功・出世への) 階段

☐ 副 一人だけで、人の助けを借りずに (同 **alone**)

☐ 形 危険な (名 **danger** [deɪndʒə] 危険)

Lesson 67

👉 to 不定詞の名詞用法：他動詞の目的語（１）

他動詞の目的語には名詞や代名詞を置きます。目的語に「動詞」を置くことはできません。しかし、動詞を「**to 動詞の原形**」という「**名詞句**」にすれば目的語に置けます。例えば、他動詞 like（…が好きだ）の目的語（O）に動詞の chew（噛む）を置くことはできませんが、**to chew**（噛むこと）という「名詞句」にすれば置くことができます。

① Max likes to chew on rugs and pillows.

Vt O

⇒ Max は好きだ・噛むことが・ラグマットを・そして・枕を。

→ Max はラグマットや枕を噛むのが好きだ。

同様に、want の目的語に send this package（この小包を送る）という動詞句は置けませんが、to を付けて名詞句にすれば置くことができます。

② Do you want to send this package by air or sea?

Vt O

⇒ あなたは望みますか？・送ることを・この小包を・航空便で・それとも・船便で。

→ この小包は航空便で送りますか？ それとも船便にしますか？

また、hope（…を希望する）の目的語に get along with everyone（全員と上手くやっていく）という動詞句は置けませんが、to を付けて名詞句にすれば可能です。

③ I'm new here and I hope to get along with everyone.

Vt O

⇒ 私は新入りだ・ここにおいて・そして・私は希望している・上手くやっていくことを・全員と。

→ 新米ですが、皆さんと仲良くやっていければと思います。

さらに、decide（…を決める）、hate（…が嫌だ）、forget（…を忘れる）の目的語に名詞句を置いた例を見てみましょう。

④ What made you decide to apply for this job?

Vt O

⇒ 何がさせましたか?・あなたに・決めるのを・応募することを・この仕事に。

→ どうしてこの仕事に応募しようと思ったのですか?

* この文は Why did you decide to apply for this job? としても同じですが、この文の方が間接的でやわらかな言い方になります。

⑤ I hate to say it, but you forgot to turn off the lights again.

Vt O Vt O

⇒ 私は嫌だ・言うことが・それを・だが・君は忘れた・消すことを・照明を・再び。

→ 言いたくないけど、君はまた電気を消し忘れていたよ。

* it は but 以下の文を指しています。

●● VOCABULARY

□ like to Vb

□ chew [tʃu:]

□ rug [rʌg]

□ pillow [pɪləʊ]

□ want to Vb

□ package [pækidʒ]

□ by air

□ by sea

□ be new

□ hope to Vb

□ get along (with ...)

□ make ... Vb

□ decide to Vb [disaɪd]

□ apply (for ...) [əplai]

□ hate to Vb [heit]

□ forget to Vb [fərgət]

□ turn ... off

□ light [laɪt]

動 Vすることを好む、Vするのが好きだ

動 噛む、かじる、…を噛む

名 部分敷きの絨毯、ラグマット、((英)) 膝[肩]掛け

名 枕

動 Vしたい (同 wish to Vb)

名 (梱包した中・小型の) 荷物、小包

副 飛行機で、航空便で

副 海路で、船便で

動 新参者[新人]である、来て間もない

動 Vすることを望む[希望する]

動 (…と) 歩調をあわせる[上手くやっていく]

動 …にVさせる (* Lesson 52 ①②を参照)

動 Vすることに決める

動 (…に) 応募する[申し込む]、(…を) 申請する

動 Vすることが嫌だ、Vしたくない

動 Vし忘れる (* 例文⑤の forgot は過去形)

動 <電気・ガス・水道など>を止める、消す

名 ((不可算)) 光、明かり、((可算)) 照明(器具)

Lesson 68

👉 to 不定詞の名詞用法：他動詞の目的語（2）

前のレッスンで学習した、「to 動詞の原形」が「名詞句」として「他動詞の目的語」に置かれている例をさらに見てみましょう。

① Nick, the new CEO, promised to raise their wages.

Vt O

⇒ Nick・新しい最高経営責任者・は約束した・引き上げることを・彼らの賃金を。

→ 新しい最高経営責任者である Nick は、彼らの賃金アップを約束した。

* Nick と the new CEO は同格 (Lesson 109) の関係にあります。

② The bank agreed to provide Evans with a long-term loan.

Vt O

⇒ 銀行は同意した・提供することを・Evans 社に・長期の貸し付けを。

→ 銀行は Evans 社に対して長期の融資を行うことに同意した。

③ All of a sudden, Mr. Sato felt the house begin to shake.

Vt O

⇒ 突然・Sato さんは感じた・家が・始めるのを・揺れることを。

→ 突然、Sato さんは家が揺れ始めたのを感じた。

* これは Lesson 54 ④ の例文です。

これらは、「他動詞の目的語」に「to 動詞の原形」が置かれた正しい英文です。しかし、同じ形をした次の2つの文は正しくありません。

✗ Have you finished to do your homework?

Vt O

(もう宿題をやり終えましたか?)

* 正しくは to do を doing にします。

✗ Suddenly everyone stopped to talk.

Vt O

(急に全員が話すことをやめた)

* 正しくは to talk を talking にします。

つまり、promise、agree、begin とは異なり、finish と stop は目的語に「to 動詞の原形」を置けないのです。一般に、目的語に置かれる「**to 動詞の原形**」は「**これから行うこと**」や「**しなければならないこと**」を表します。よって、「今までしていたこと」や「今していること」を目的語にとる finish や stop とは相性が悪いのです。次の例文の他動詞 plan (…を予定する) は目的語が「これから行うこと」を表すので、「to 動詞の原形」との相性はピッタリです。

④ Joe, what are you planning to major in?

Vt O

⇒ Joe、何を・君は計画していますか？・専攻することを。

→ Joe、君は何を専攻しようと思っているんだい？

このように、目的語に「これから行うこと」や「しなければならないこと」を表す「to 動詞の原形」をとる他動詞には、次のようなものがあります。

want to Vb (V したい)	wish to Vb (V したい)
would like to Vb (V したい)	would love to Vb (V したい)
hope to Vb (V するのを願う)	plan to Vb (V することを計画する)
mean to Vb (V するつもりだ)	decide to Vb (V することに決める)
choose to Vb (V することを選ぶ)	promise to Vb (V することを約束する)
refuse to Vb (V するのを断る)	agree to Vb (V することに同意する)
need to Vb (V する必要がある)	remember to Vb (V するのを覚えている)
forget to Vb (V するのを忘れる)	fail to Vb (V しない、V できない)
manage to Vb (どうにか V する)	learn to Vb (V することを習得する)
begin to Vb (V し始める)	start to Vb (V し始める)

(注) begin, start は目的語に Ving (動名詞) をとることもできます。動名詞は Chapter 8 で学習します。

また、Lesson 67 ①の like のような「好き嫌いを表す他動詞」も、目的語に「to 動詞の原形」をとることができます。

like to Vb (V することが好きだ) **love to Vb** (V することが大好きだ)
prefer to Vb (V する方をより好む) **hate to Vb** (V することが嫌だ)

(注) これらの他動詞は目的語に Ving (動名詞) をとることもできます。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|---|
| ☐ CEO [si:ʌu] | ☐ 名 最高経営責任者 (* <u>chief executive officer</u> の略) |
| ☐ promise to Vb [prəmis] | ☐ 動 V することを約束する |
| ☐ raise [réiz] | ☐ 動 …を上げる (動 rise 上がる) |
| ☐ wage [wéidʒ] | ☐ 名 賃金、時間給 (名 salary 給与、給料) |
| ☐ bank [bæŋk] | ☐ 名 銀行、(データなどの) …バンク、(川の) 土手、岸 |
| ☐ agree to Vb [əgrɪ:] | ☐ 動 V することに同意する |
| ☐ provide ... with ~
[prəvaɪd] | ☐ 動 …に～を与える、…に～を提供[供給]する
(同 provide ~ for ... ~を…に与える) |
| ☐ long-term [lɔ:rm] | ☐ 形 長期の (反 short-term 短期の) |
| ☐ loan [ləun] | ☐ 名 貸し付け、融資、ローン、貸付金 |
| ☐ plan to Vb [plæn] | ☐ 動 V することを計画する、V する予定でいる |
| ☐ major in ... [meɪdʒər] | ☐ 動 …を専攻する (* major は「専攻(科目)」という
名詞でも用いる) |

Lesson 69

👉 to 不定詞の名詞用法：疑問詞句を作る場合

「to 動詞の原形」の前に疑問詞を置き「**疑問詞 to 動詞の原形**」という形にすると、「…する(べき)か(ということ)」という意味の「**名詞句**」が作れます。

whether to Vb	(Vする(べき)かどうか)
what to Vb	(何をVする(べき)か)
what 名詞 to Vb	(何の[どんな] <名詞>をVする(べき)か)
which to Vb	(どれ[どちら]をVする(べき)か)
which 名詞 to Vb	(どの[どちらの] <名詞>をVする(べき)か)
how to Vb	(どのようにしてVする(べき)か)
where to Vb	(どこで[へ] Vする(べき)か)
when to Vb	(いつVする(べき)か)

これらの「名詞句」は主に「be動詞の補語」「他動詞の目的語」「前置詞の目的語」で用いられます(長いので「主語」ではあまり用いられません)。

まずは、「be動詞の補語」の例です。「疑問詞 to 動詞の原形」の「名詞句」が1語の名詞と同様に扱われている点に注意してください。

① The question is what to do next and how to do it.

S V C1 C2

⇒ 問題は・である・何を行うか・次に・そして・どのようにして行くか・それを。

→ 問題は、次に何をするか、そしてそれをどうやってするかだ。

* 補語が and を挟んで2つあります。

次は、「他動詞の目的語」の例です。この場所で最もよく用いられます。

② The board will discuss whether to hire a PR firm.

Vt O

⇒ 取締役会は話し合うことになる・かどうかを・雇う・PR 会社を。

→ 今度の取締役会では、PR 会社を雇うかどうか話し合われる。

③ Cathy is still wondering which candidate to vote for.

Vt O

- ⇒ Cathy はまだ思案している・どの候補者に・投票するかを。
→ Cathy はまだ、どの候補者に投票するかを決めかねている。

④ **Tell me when and where to meet you, and I'll be there.**

Vt O' O

- ⇒ 言ってください・私に・いつ・そして・どこで・会うかを・あなたに・そうすれば・私はいることになる・そこに。
→ お会いする時間と場所を言ってもらえれば、そちらへ参ります。
* O は when to meet you and where to meet you の下線部を省いた形です。

最後は、「前置詞の目的語」の例です。ここでも、「疑問詞 to 動詞の原形」が1語の名詞と同様に扱われている点に注意しましょう。

⑤ **I need some advice on what size to buy.**

前置詞 O

- ⇒ 私は必要としている・幾分かのアドバイスを・に関する・どのサイズを買うべきか。
→ どのサイズを買えばいいか、アドバイスをしてもらいたいのですが。
* on what size to buy は形容詞句として名詞 advice を修飾しています。

Ch.
7

●● VOCABULARY

- | | |
|--|--|
| ☐ board [bɔ:rd] | ☐ 名 板、盤、理事会、取締役会、役員会 |
| ☐ hire [haɪə] | ☐ 動 …を雇う、…を賃借りする |
| ☐ PR | ☐ 名 広報(活動) (* public relations の略) |
| ☐ firm [fɜ:m] | ☐ 名 会社、商会 ☐ 形 確固たる、引き締まった |
| ☐ still | ☐ 副 いまだに、今もなお、それでも(やはり) |
| ☐ wonder [wʌndə] | ☐ 動 …かなと思う、…について思案する |
| ☐ candidate
[kændɪdeɪt, -dət] | ☐ 名 候補者、志願者、志望者 |
| ☐ vote for ... [vəʊt] | ☐ 動 …に賛成の投票をする (☐ vote against ... …に反対の投票をする) |
| ☐ I'll be there. | ☐ 慣 そちら (= 相手のいる所) に行き [着き] ます。 |
| ☐ some 不可算名詞 | ☐ 名 いくつか [幾分か] の <不可算名詞> (* 「不可算名詞」だけだとその名詞の種類全般を表すため some をつけてその一部であることを示す) |
| ☐ advice [ədvaɪs əd-] | ☐ 名 助言、忠告、アドバイス (* 不可算名詞なので <u>an</u> advice、advice <u>s</u> としない。巻末の付録 R6 を参照) |

Lesson 70

👉 to 不定詞の形容詞用法 (1)

「to 動詞の原形」には、「形容詞句」として前に置かれた名詞を修飾する用法もあります（これを「to 不定詞の形容詞用法」と呼びます）。

名詞 to Vb (V する (ための・すべき) <名詞>)

次の例文の「to 動詞の原形」に、「V する」「V するための」「V すべき」のいずれかを当てはめて意味をとってみましょう。

① "Would you like something to drink?" "No, thanks."

⇒ 「あなたは欲しいですか? ・何かを・飲むための」「いいえ・ありがとう」

→ 「何かお飲み物はいかがですか?」「いえ、結構です」

* 疑問文で「何か」を anything にすると単に Yes か No かを尋ねる言い方になり、something にすると Yes を期待する（ここでは飲み物を勧める）言い方になります。

② Bill, you have everything to gain and nothing to lose.

⇒ Bill ・あなたは持っている・全てを・獲得する・そして・無を・失う。

→ Bill、あなたは得るものばかりで、失うものは何もないですよ。

これらの例では、「to 動詞の原形」の動詞 (drink, gain, lose) が「他動詞」(Vt) で、その目的語 (O) が修飾先の「名詞」になっています。つまり、① は「something (O) to drink (Vt)」、② は「everything (O) to gain (Vt)」nothing (O) to lose (Vt)」です。このように、形容詞句になる「to 動詞の原形」は、修飾される名詞が他動詞 (Vt) の目的語 (O) になるのが原則です。

名詞 to Vt ○

また、この「他動詞」(Vt) には、look up to (…を尊敬する)、learn from (…から学ぶ)、stay at (…に宿泊する)、live in (…に住む) のような「前置詞を伴う動詞句」も含まれます。次の例文で確認しましょう。

③ Bob needs someone to look up to and learn from.

⇒ Bob は必要としている・人を・尊敬すべき・そして・学ぶべき・(その人) から。

→ Bob には尊敬と学びの対象となる人が必要だ。

* ここでの learn は「物事や教訓を学ぶ」という自動詞です。

④ I'm looking for a decent hotel to stay at for two nights.

⇒ 私は探している・そこそこ良いホテルを・宿泊するための・(そこ)で・二晩のために。

→ 私は二泊するための、そこそこ良いホテルを探しています。

まとめとして、次の3つの文の意味の違いを考えてみましょう。⑤の write は「…を書く」という他動詞、⑥と⑦の write は「文字を書く」という自動詞です。前置詞の有無によって意味が異なる点に注意してください。

⑤ I have nothing to write. 書くこと(=書く話題)がない。

⑥ I have nothing to write with. 書くもの(=筆記具)がない。

⑦ I have nothing to write on. 書き留めるもの(=紙など)がない。

(注) ⑥の with は「…を手にもって」、⑦の on は「…の上に」という意味です。

●● VOCABULARY

☐ Would you like ...?

【慣】…はいかがですか?; …を召し上がりますか?
(※ Do you want ...? を丁寧にした表現)

☐ No, thanks. [ˈnəʊθɪŋks]

【慣】いいえ、結構です。(【同】No, thank you.)

☐ gain [ɡeɪn]

【動】…を得る、…を獲得する、…を増す

☐ lose [luːz]

【動】…を失う、負ける(【名】loss [lɒs | lɔːs] 損失、敗北)

☐ look up to ...

【動】…を仰ぎ見る、…を尊敬する

☐ learn from ... [lɜːrn]

【動】…から学ぶ、…から教訓を得る

☐ look for ...

【動】…を探す、…を探し求める

☐ decent [diːsnt]

【形】そこそこ良い、まずまずの、及第点の

☐ for ... night(s)

【副】…泊するために 【形】…泊するための

Lesson 71

👉 to 不定詞の形容詞用法 (2)

前のレッスンに続き、「形容詞句」として用いる「to 動詞の原形」を学習します。
まずは、次の表現を見てください。

a house to live in (住む家)

これは、live in の目的語が house になっています。この表現で in を省くことはできません。しかし、次の表現では、in を付けると不自然な英語になります。

a place to live in (住む場所)

理由は、名詞が place だからです。「to 動詞の原形」が place を修飾する場合、場所の前置詞 (in, at, to) を付けると、くどくなります。次の例文でも、文法的には下線部 (赤) を to go to とすべきところですが、to は省略するのが自然です。

① What's an inexpensive place to go for a winter break?

⇒ 何ですか？・費用が高くない場所は・行くための・冬休み (を過ごすため) に。

→ 冬休みに出かけるのに安く済ませられる場所ってどこですか？

* for は「…のために」という目的を表しています。

このように、前置詞を省略するのが自然なのは、「場所」「時」「方法」「理由」を始めとする次のような名詞です。

place	to Vb	in/at/to	(Vする場所)
time	to Vb	with	(Vする時間)
way	to Vb	in	(Vする方法)
reason	to Vb	for	(Vする理由)
money	to Vb	with	(Vするお金)
chance	to Vb	with	(Vする機会)
effort	to Vb	in	(Vするための努力)

(注) way は way of Ving の形でも、reason は reason for Ving の形でも、よく用います。

いくつかの表現を例文で確認しておきましょう。

② I was so busy I had no time to breathe.

⇒ 私はとても忙しかった・(以下なほど)・私がつもっていた・無の時間を呼吸するための。
→ 息をつく暇もないほど忙しかったですよ。

③ "Highly imaginative" is the best way to describe her works.

⇒ 「とても想像力に富んだ」が最も良い方法だ・表現する・彼女の作品を。
→ 「とても想像力に富む」というのが、彼女の作品を表現する最も良い方法だ。

④ Bob is saving money to buy a used car.

⇒ Bob は貯めている・お金を・買うための・中古車を。
→ Bob は今、中古車を買うためのお金を貯めている。
※ to buy a used car は「中古車を買うために」という Lesson 73 で学習する副詞用法(目的の意味)と解釈することもできます。

⑤ I haven't had a chance to tell you, but I got a divorce.

⇒ 私は今まで持たなかった・機会を・話す・あなたに・しかし・私はした・離婚を。
→ 今まで言いそびれていたんだけど、私、離婚したの。

●● VOCABULARY

- | | |
|--|--|
| ☐ inexpensive [inɪkspənsɪv] | ☐ 形 高価でない (* in- は反意語を作る接頭辞) |
| ☐ break [breɪk] | ☐ 名 中断、途切れ、休み、休憩 |
| ☐ so ... (that) ~ | ☐ 慣 ~するほどとても... |
| ☐ breathe [briːð] | ☐ 動 息[呼吸]をする (名 breath [breθ] 息、呼吸) |
| ☐ highly [haɪli] | ☐ 副 とても、とてもよく (同 very, very well) |
| ☐ imaginative [ɪmædʒɪnətɪv] | ☐ 形 想像力に富んだ、想像的な |
| ☐ describe [dɪskraɪb] | ☐ 動 ...を言い表す、...を説明[表現、描写]する
(名 description [dɪskrɪpʃən] 説明、記述、描写) |
| ☐ work [wɜːrk] | ☐ 名 作品、著作物 (*例文③の works は複数形) |
| ☐ save [seɪv] | ☐ 動 ...を蓄える、...を貯金する、...を節約する、
...を省く (名 savings [seɪvɪŋz] 貯金、貯蓄) |
| ☐ used [juːzd] | ☐ 形 使い古した、中古の |
| ☐ chance [tʃæns tʃɑːns] | ☐ 名 機会、チャンス、可能性、見込み |
| ☐ divorce [dɪvɔːrs] | ☐ 名 離婚 (動 get a divorce 離婚をする) |

Lesson 72

👉 to 不定詞の形容詞用法 (3)

「to 動詞の原形」に修飾される「名詞」が「to 動詞の原形」の**行い手**になることもあります。

名詞	<u>to Vb</u>	(V する<名詞>)
↑		
Vb の行い手		

これは、「名詞」の前に、**no**、**序数 (R25 参照)**、**最上級 (Lesson174 参照)** が置かれる場合によく見られます。次の例文を、下線部 (黒) の「名詞」が「to 動詞の原形」の「**行い手**」になっている点に注意しながら、読んでみましょう。

① **Bob had no one to support him.**

one (人が) support him (彼を養う)

⇒ Bob は持っていた・無の人を・養ってくれる・彼を。

→ Bob には彼を養ってくれる人はいなかった。

② **Sandy was the oldest person to win the award.**

person (人が) win the award (賞を獲得する)

⇒ Sandy は・だった・最年長の人・獲得した・その賞を。

→ Sandy はその賞を獲得した最高齢者であった。

③ **It was the last event to be held at the historic hall.**

event (イベントが) be held (催される)

⇒ それは・だった・最後のイベント・催された・その歴史的なホールで。

→ それは、その歴史的なホールで行われた最後のイベントだった。

また、「**序数+名詞**」の「名詞」が明白な場合、例えば、person や one (人) などの場合は、しばしば「**名詞**」が省略されます。

④ **Mike, be the first to say hello.**

⇒ Mike ・でありなさい・最初 (の人) ・言う・「こんにちは」を。

→ Mike、人に会ったら自分から挨拶するのですよ。

●● VOCABULARY

- ☐ **one**
☐ **support** [səp'ɔ:t]
☐ **win**
☐ **award** [əw'd:rd]
☐ **hold** [həʊld]
☐ **historic** [hist'ɔ:rik | -tɔ:r-]
☐ **say hello** [heləu, həl-, hələu]

- 代** 人 (*複数形は ones)
- 動** ...を支える、...を支援 [応援] する、...を養う
名 支え、支援、援助
- 動** 勝つ、〈試合など〉に勝つ、〈賞など〉を勝ち取る [獲得する] **名** 勝利、白星
- 名** 賞、賞品、賞金 **動** (...に) ~を授与する
- 動** ...を開催する、...を催す (*この意味の hold は例文③のように受動態で用いることが多い)
- 形** 歴史的な、歴史上重要な
- 動** こんにちはと言う、挨拶をする

Ch.
7

例文に登場する主なキャラクター (17)



Sandy (Sandra)

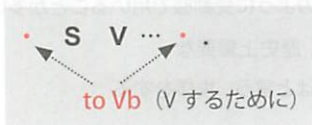
Hank の内縁の妻。
 大統領官邸での清掃員の
 体験を基に書いた小説が
 大ベストセラーに。

Lesson 73

👉 to 不定詞の副詞用法：目的を表す

ここからは、「to 動詞の原形」が「副詞句」の働きをする場合を見ていきます（これを「to 不定詞の副詞用法」と呼びます）。副詞とは、名詞以外のことば（＝動詞、形容詞、副詞）や文を修飾することばのことです（Lesson 1）。

この副詞用法の中で最もよく用いられるのは、「…するために」「…するには」という「目的」の意味です。この場合、「to 動詞の原形」は「文末」「動詞(句)の後」「文頭」のいずれかに置かれ、文や動詞(句)を修飾します。



次の3つの例文で確認しましょう。

① I'm here to ask you a favor.

⇒ 私はいる・ここに・頼むために・君に・親切な行為を。

→ (今日は) 君に頼みたいことがあって来たんだ。

* 下線部の副詞句は I'm here という文を修飾しています。

② Goals are necessary to achieve success.

⇒ 目標が必要である・達成するには・成功を。

→ 成功を収めるためには目標が必要です。

* 下線部の副詞句は Goals are necessary という文を修飾しています。

③ To find out more, please click the link below.

⇒ 知るためには・より多くを・どうかクリックしてください・リンクを・以下の。

→ より詳しい情報は、以下のリンクをクリックしてご確認ください。

* 下線部の副詞句は please 以下の命令文を修飾しています。目的を表す「to 動詞の原形」が文頭に置かれる場合は、しばしば後ろが「命令文」になります。

「目的」の意味を強調したり、フォーマルな言い方にする場合は、「in order to」を用います。次は、②と同じ意味の、よりフォーマルな文です。

④ **Goals are necessary in order to achieve success.**

⇒ 目標が必要である・達成するためには・成功を。

→ 成功を収めるためには目標が必要です。

「go to 動詞の原形」(…しに行く)や「come to 動詞の原形」(…しに来る[行く])の「to 動詞の原形」も「目的」を表しますが、日常会話ではよく、to を and に置き換えたり省略したりします(但し、これが可能なのは、以下の⑤と⑥のように come と go が「原形」の場合だけです)。

⑤ **I'll come and get my stuff later.**

I'll come get my stuff later.

⇒ 私は来ます・そして・手にします・私の荷物を・後で。

→ 後で荷物を取りに来ます。

⑥ **There's a "For Sale" sign. Let's go and check it out.**

There's a "For Sale" sign. Let's go check it out.

⇒ ある・「売り出し中」の看板が。行こう・そして・見てみよう・それを。

→ 「売り出し中」の看板が出てるよ。ちょっと見に行こう。

●● VOCABULARY

- | | |
|--|--|
| ☐ ask ... a favor [féivər] | ☐ 動 ...に頼み事をする (同 ask a favor of ...) |
| ☐ necessary [nésəsəri] | ☐ 形 必要な (名 necessity [nésəsəti] 必要(性)) |
| ☐ achieve [ətfi:v] | ☐ 動 ...を達成する、...を成し遂げる、...を獲得する |
| ☐ find (···) out | ☐ 動 (<情報>を) 見つけ出す[知る]、...がわかる
(※例文③では他動詞で目的語は more) |
| ☐ below [bi'lou] | ☐ 副 下[低い所]に、下位に、下記に ☐ 前 ...より
下[低い所]に |

☐ **in order to Vb**

[ɪnˈɔːdə]

☐ **come (and) Vb**

☐ **stuff** [stʌf]

☐ **later** [ˈleɪtər]

☐ **for sale** [ˈseɪl]

☐ **sign** [saɪn]

☐ **go (and) Vb**

☐ **check ... out** [tʃek]

☐ 副 Vする目的で、Vするために

☐ 動 Vしに来る[行く]

☐ 名 ((口語)) ((不可算)) 物、がらくた (*名前がわからない物や重要性の低い物に用いる)

☐ 副 後ほど、後で

☐ 形 売りに出されて、売り物の

☐ 名 標示、看板、掲示、標識、記号、身ぶり、兆候

☐ 動 Vしに行く

☐ 動 (面白そうなので) ...を見てみる



Lesson 74



to 不定詞の副詞用法：原因・理由・根拠を表す

「to 動詞の原形」は「**感情の形容詞**」を修飾してその「**原因・理由**」を述べたり、文末に置いて、その「**文**」の「**判断の根拠**」を述べるのにも用います。例えば、pleased (嬉しい) という「感情の形容詞」の「原因・理由」を「あなたに会えて」と述べるには、次のようにします。

① I'm so pleased to meet you at last.

⇒ 私はとても嬉しい・会えて・あなたに・ついに。

→ やっとお会いできて、とても嬉しいです。

「原因・理由」を表す「to 動詞の原形」は、「…して」「…するとは」という意味で、次のような「感情の形容詞」を修飾します。例文と共に確認してください。

happy [glad, pleased]	(嬉しい)
proud	(誇らしい)
sorry	(残念だ)
surprised [amazed]	(驚いている)

to Vb (Vして、Vするとは)

② I'm sorry to hear about your injury, Kate. Get well soon.

⇒ 僕は残念だ・聞いて・君のけがについて・Kate。なって・良い(状態に)・すぐに。

→ 君のけがのことを聞いて残念だよ、Kate。早く良くなってね。

③ I'm surprised to see you here at this time of day.

⇒ 私は驚いている・目にして・君を・ここで・この時間に・一日の。

→ こんな時間にここで君に会うなんてびっくりだ。

「判断の根拠」を表す場合は、「…して」「…するとは」という意味で「文」を修飾します（この用法の使用頻度は「原因・理由」ほど高くはありません）。

④ I'm lucky to have such terrific staff working for me.

- ⇒ 私は運が良い・持って・こんな素晴らしいスタッフが働いている(状況を)・私のために。
→ こんなに素晴らしいスタッフを部下に持って、私は運の良い人間です。

●● VOCABULARY

☐ pleased [pli:zd]	形 喜んでいる (動 please …を喜ばせる)
☐ at last [læst lá:st]	副 ついに、とうとう、やっと (同 finally)
☐ injury [indʒəri]	名 けが、損傷 (動 injure [indʒər] …にけがをさせる)
☐ well [wél]	形 (身体が) 良い状態である、健康である
☐ surprised [səpráizd]	形 驚いている (動 surprise …を驚かせる)
☐ at this time of day	副 今時分に、この[こんな]時間に
☐ have … Ving	動 …がVしている状況にある (* Lesson 47 の表)
☐ such	副 こんな(に)、そんな(に)
☐ terrific [tərifik]	形 ((口語)) 素晴らしい、とても良い (同 great)
☐ staff [stáf stá:f]	名 ((集合的に)) 職員、従業員、スタッフ

Lesson 75

👍 to 不定詞の副詞用法：形容詞を限定する (1)

「to 動詞の原形」には、**形容詞**を修飾してその**意味を限定する**(=範囲を狭める)働きもあります。例えば、形容詞 **able** (可能な) の後ろに「to 動詞の原形」を置くと、「…するのが可能だ」「…することができる」という意味になります。

① Nick was able to persuade everyone but Bill.

⇒ Nick はできた・説得することが・全員を・Bill 以外の。

➔ Nick は Bill 以外の全員を説得することができた。

同様に、形容詞 **sure** (確実だ) の後ろに「to 動詞の原形」を置くと「…するのが確実だ」という意味になります。

② Keep up the good work and you are sure to succeed.

⇒ 維持しなさい・その良い仕事を・そうすれば・君は確実だ・成功するのが。

➔ この調子で頑張れば、君は必ずうまく行くよ。

このように、「to 動詞の原形」が形容詞の意味を限定する表現には、次のようなものがあります。例文と共に確認してください。

形容詞	
able	(V することが可能だ)
sure [certain]	(V するのが確実だ)
ready	(V する準備ができています)
likely	(V する可能性が高い)
eager [anxious]	(とても V したがっている)
willing	(V するのをいとわない)
reluctant	(V するのに気が進まない)

to Vb
(V するのが、
V することが)

③ Mr. Lee said, "We're not ready to start a family yet."

- ⇒ Lee さんは言った・「私達は準備ができていない・始める・家族を・まだ」
→ Lee さんは「私達は子供はまだ早いと思っています」と言った。

④ On the phone, she sounded eager to see you.

- ⇒ 電話で・彼女は(口調が)聞こえた・熱心であると・会うのに・あなたに。
→ 電話では、彼女、あなたに会いたがってるみたいだったわよ。

⑤ Mike, I'm willing to pay you \$50 for a month of chores.

- ⇒ Mike・私はいとわない・支払うことを・君に・50ドルを・1ヶ月に対し・雑用の。
→ Mike、1ヶ月雑用をするのなら、50ドル払ってもいいよ。
※ pay は第4文型(…に～を支払う)で使われています。
※ a month of は「1ヶ月の」という形容詞句で chores を修飾しています。

●● NOTE 「形容詞 to 不定詞」「他動詞 to 不定詞」の名詞句への変換

「able to Vb」(V することができる)という「形容詞句」を「V することができること」「V する能力」という「名詞句」に変えるには、形容詞 able を名詞 ability に変えて「ability to Vb」とします。

⑥ Bill was impressed by Nick's ability to solve problems fast.

- ⇒ Bill は感心させられた・Nick ができることに・解決することを・問題を・速く。
→ Bill は Nick の迅速な問題解決能力に感銘を受けた。
※ Nick's は ability を修飾。Nick's 以下の名詞句は前置詞 by の目的語です。

また、「decide to Vb」(V することに決める)という「動詞句」を「V することに決めること」「V するという決定」という「名詞句」に変えるには、動詞 decide を名詞の decision に変えて「decision to Vb」とします。

⑦ Nick made the decision to cut executive salaries by 20%.

- ⇒ Nick は行った・決定を・カットする・重役の給与を・20%ぶん。
→ Nick は役員報酬を2割カットする決定を下した。

このように、「形容詞 + to 動詞の原形」や「動詞 + to 動詞の原形」は、しばしば「名詞 + to 動詞の原形」という「名詞句」に変換されます（ちなみに、ここでの「to 動詞の原形」は名詞用法と形容詞用法のどちらにも解釈が可能です）。

● VOCABULARY

☐ **persuade** [pə'sweɪd]

☐ **but**

☐ **keep ... up**

☐ **good work**

☐ **succeed** [sək'sɪd]

☐ **start a family**

☐ **on the phone** [fəʊn]

☐ **sound**

☐ **for**

☐ **chore** [tʃɔːr]

☐ **impress** [ɪm'pres]

☐ **ability (to Vb)** [ə'bɪləti]

☐ **solve** [sɒlv]

☐ **problem** [prə'bləm | prɒb-]

☐ **decision** [dɪ'sɪʒən]

☐ **executive** [ɪg'zekjutɪv]

☐ **salary** [sæləri]

☐ **by**

☐ 動 …を説得する、…を納得させる

☐ 前 ((nothing, no one, everything, everyone, anything, anyone, all など、ゼロや 100% の語の後ろで用い) …以外の、…を除く

☐ 動 …を維持する、…を持続させる

☐ 名 よい仕事[勉強]ぶり、良い出来栄え（*例文②の Keep up the good work. は「この調子で頑張つて。」という意味の慣用表現）

☐ 動 成功する、うまくいく、出世する

☐ 動 第一子をもうける（* family は「子供」を指す。Do you have a family? は「おさんはいますか？」という意味）

☐ 副 電話で、電話中で

☐ 動 (声・音・話が) …に聞こえる、…と思われる

☐ 前 …の対価として、…と引き換えに

☐ 名 雑用、雑事（*例文⑤では複数形）

☐ 動 …を感心させる、…に感銘を与える

☐ 名 (V することが) できること、(V する) 能力

☐ 動 …を解決する、…を解く（☐ **solution** [səluːʃn] 解決、解決法）

☐ 名 問題、課題

☐ 名 決めること、決定（☐ **decide** 決める）

☐ 名 幹部、重役、執行部 ☐ 形 幹部の、重役の

☐ 名 給与、給料（☐ **wage** [weɪdʒ] 賃金、時間給）

☐ 前 …ぶん、…の差で

Lesson 76

👉 to 不定詞の副詞用法：形容詞を限定する（2）

前のレッスンで学習した、「to 動詞の原形」が「形容詞」を限定する用法には、もう一つ異なるタイプがあります。次の例文を見てください。

① Girls are hard to understand.

⇒ 女の子は難しい・理解するのが。

→ 女の子って理解しづらいよ。

この「to 動詞の原形」は「…することが」という意味で形容詞を修飾しています。しかし、前のレッスンの表現とは異なる点があります。前のレッスンの表現は、「to 動詞の原形」が「完結した形」をしています。つまり、①の to persuade everyone は第3文型が完結、②の to succeed は第1文型が完結しています。

主語 + be 動詞 + 形容詞 + to 完結した動詞(句)

これに対し、このレッスンの①の understand (…を理解する) は、後ろに**目的語**が欠落する「**非完結な形**」で、その目的語は文の主語 Girls になっています。

主語 + be 動詞 + 形容詞 + to (目的語を欠く) 非完結な動詞(句) ○

目的語 ◀

これは、形容詞が主として、hard, difficult (難しい)、easy (容易な)、impossible (不可能な) のような「**難易**」を表す語の場合に起こる形で、「to 動詞の原形」は第3文型の「**他動詞**」か「**前置詞を伴う動詞句**」のどちらかになります。次の3つの例文で確認しましょう。

② In short, he's easy to forget.

目的語 ◀

⇒ 要するに・彼は簡単だ・忘れるのが。

→ 要するに、彼って影が薄いんだよね。

* he は他動詞 forget の目的語で、「彼を忘れるのは簡単だ」という意味です。

「彼はすぐに物忘れをする」(he easily forgets things) という意味ではありません。

③ Ben is naughty and difficult to deal with.

目的語

⇒ Ben はやんちゃだ・そして・難しい・扱うのが。

→ Ben はやんちゃで扱いにくい子だ。

* deal with (…を扱う) の目的語は Ben です。

④ Dad, the ground is frozen and impossible to dig.

目的語

⇒ パパ・地面が凍っている・そして・不可能だ・掘るのが。

→ パパ、地面が凍っていて、掘るのは無理だよ。

また、このタイプは、名詞用法の「to 動詞の原形」に言い換えが可能です。

主語 is 形容詞 to Vb. (＜主語＞はVするのが＜形容詞＞だ)

To Vb 主語 is 形容詞. (＜主語＞をVすることは＜形容詞＞だ)

例えば、例文①は To understand girls is hard. (女の子を理解することは難しい) に、②は To forget him is easy. (彼を忘れることは簡単だ) に、③は To deal with Ben is difficult. (Ben を扱うことは難しい) に、④は To dig the ground is impossible. (地面を掘ることは不可能だ) に、それぞれ言い換えが可能です。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|--|
| ☐ in short [ɪˈʃɔ:t] | 【副】 要するに、つまり (手短かに言えば) |
| ☐ forget [fəˈɡet] | 【動】 …を忘れる |
| ☐ naughty [nɔ:ti] | 【形】 言うことを聞かない、行儀の悪い、やんちゃな |
| ☐ deal with … [di:l] | 【動】 …を扱う、…に対処する、…を処置する |
| ☐ ground [graʊnd] | 【名】 地面、地表、地上 |
| ☐ frozen [ˈfrəʊzn] | 【形】 凍った (動 freeze [fri:z] …を凍らせる) |
| ☐ impossible [ɪmˈpɒsəbl] | 【形】 不可能な (反 possible 可能な * im- は反意語を作る働きをする) |
| ☐ dig [dɪg] | 【動】 …を掘る |

Lesson 77

👉 to 不定詞の副詞用法：決まり文句

副詞句の働きをする「to 動詞の原形」にはいくつかの慣用的な表現があります。次の3つに分類ができます。

(A) 動詞を修飾し、「結果」を述べる表現

grow (up) to be ... (成長して…になる)

live to be ... (years old) (…歳まで生きる)

(B) 形容詞や副詞を修飾し、「程度」を表す表現

too ... to Vb (Vするには…すぎる、…すぎてVできない)

... enough to Vb (Vするに足るだけの…)

(C) 「…すると」「…だが」という意味で、「前置き」「補足」を行う表現

to tell (you) the truth (本当のことを言うと)

to be honest (with you) (正直に言うと)

to begin [start] with (まず第一に、そもそも)

(注) 「... enough to Vb」の「...」は形容詞か副詞です。enough が名詞を修飾する場合は「enough 名詞 to Vb」の語順にします。

まずは、(A) の「結果」を述べる表現の例を見てみましょう。

① Max grew up to be huge and lived to be 15.

⇒ Max は成長した・(結果) 巨大になるまで・そして・生きた・(結果) 15 になるまで。

→ Max は成長して巨大になり、15 歳まで生きた。

一般に、「結果」の意味で用いる「to 動詞の原形」は be や become のような「なる」という意味の動詞か、see (目にする)、find (見つける) のような「発見」を表す動詞です (それ以外の動詞を使うと「目的」の意味に解釈されかねません)。

② He turned around to see Bob and Kate waving at him.

⇒ 彼は向きを変えた・くると・(結果) 目にする・Bob と Kate が・手を振っているのを・彼をめぐって。

→ 彼が振り返ると、Bob と Kate が手を振っているのが見えた。

* この例文は Lesson 48 ③ と同じ意味です。

続いて、(B)の「程度」を述べる表現を見てみましょう。

③ She was young enough to work but too old to get a job easily.

⇒ 彼女は若かった・十分に・働くには・しかし・年を取りすぎていた・得るには・仕事を・容易に。

→ 彼女はまだ十分働ける年齢だが、簡単に仕事を得られるほど若くはなかった。

(C)の「前置き」「補足」の表現は、主に「文頭」に置かれ、文全体を修飾します。

④ "To tell you the truth, I'm scared of heights." "So am I."

⇒ 「言うと・あなたに・本当の事を・私は怖い・高い所が」「そうです・僕も」

→ 「実を言うと、私、高所恐怖症なんです」「僕もそうなんだ」

⑤ There are problems. To begin with, neither of us has a car.

⇒ ある・(複数の)問題が。まず第一に・どちらも無・私達の・が持っている・車を。

→ いくつか問題があります。まず第一に、私達は二人とも車を持っていません。

Ch.
7

●● VOCABULARY

□ huge [hju:dʒ | hju:dʒ]

形 (大きさ・量・程度が) 極めて大きな、巨大な

□ easily [i:zili]

副 簡単に、容易に (形 easy 簡単な)

□ scared (of ...) [skéərd]

動 (…を) 怖がっている (* Lesson 57 の表)

□ height [háit]

名 高さ、高度、((heights で)) 高い場所、高所

□ So am I.

慣 ((前文が現在形の be 動詞で)) 私もそうです。
(* 前文が一般動詞の場合は am の代わりに do を用いる: "I like dogs." "So do I." (また、So am I. も So do I. もくだけた言い方では **Me too.** と言える)。前文が否定文の場合の「私もそうです」は be 動詞なら Neither am I. とし、一般動詞なら Neither do I. とする (また、どちらもくだけた言い方では **Me neither.** と言える))

□ neither (of ...)

[ni:ðər | náí-]

代 (…の) どちらも無、(…の) 両方とも～ない

Lesson 78

👉 to 不定詞の意味上の主語 (1)

「to 動詞の原形」の「行い手」は文の**主語と一致**します（前のレッスンの表(C)の表現は例外）。例えば、次の例文の to hear の行い手は主語の She です。

① She's waiting to hear from you.

⇒ 彼女は待っている・連絡をもらうのを・あなたから。

→ 彼女はあなたからの連絡を待っているのよ。

しかし、「行い手」を「主語以外」にしたい時もあり、その場合は「to 動詞の原形」の前に「**for + 名詞 / 代名詞** (目的格)」を置きます。例えば、次の例文の to ask ... の行い手は、主語の She ではなく、you です。

② She's waiting for you to ask her out.

⇒ 彼女は待っている・あなたが・デートに誘うのを・彼女を。

→ 彼女はあなたがデートに誘ってくれるのを待っているのよ。

次の③の to go ... の「行い手」は主語の They ですが、④の to show ... の「行い手」は Meg です。

③ They had arranged to go fishing the following morning.

⇒ 彼らは (その時まで)に手配していた・行くことを・魚釣りに・その次の朝に。

→ 彼らは翌朝に魚釣りに出かける準備を整えていた。

* arranged (その時手配した) と had arranged (既に手配していた) の違いに注意。

* the following morning は the next morning と同じ意味で、どちらも前置詞の on は省略されます (Lesson 2 [NOTE])。

④ Uncle Ted *arranged for* Meg *to show* us around London.

⇒ Ted おじさんは手配した・Meg が・見せることを・我々に・ロンドンのあちこちを。

→ Ted おじさんは、Meg が我々にロンドンを案内をするよう手配してくれた。

このように、「for + 名詞 / 代名詞 (目的格)」で示される「to 動詞の原形」の「行い手」を「to 不定詞の意味上の主語」と呼びます。

●● VOCABULARY

- | | |
|--|--|
| ☐ wait to Vb [wéit] | ☐ 動 Vしようと呼つ、Vするのを待つ |
| ☐ hear from ... | ☐ 動 ...から連絡 [返事、便り] をもらう |
| ☐ wait for ... to Vb | ☐ 動 ...がVするのを待つ |
| ☐ ask ... out | ☐ 動 ...をデートに誘う、...にデートを申し込む |
| ☐ arrange to Vb
[ə'reindʒ] | ☐ 動 Vするように手配 [用意、準備、お膳立て] する |
| ☐ go Ving | ☐ 動 Vしに行く (* Ving には shopping, fishing, swimming, skiing のようなリクリエーションを表す語を置く) |
| ☐ following [fə'ləuɪŋ] [fɔ:l-] | ☐ 形 次の、次に来る、以下の ☐ 前 ...に続いて |
| ☐ arrange for ... to Vb | ☐ 名 ((the following で)) 下記の事項 |
| ☐ show ... around (～) | ☐ 動 ...がVするように手配 [用意、準備] する |
| | ☐ 動 ...に (～を) あちこち案内する |

Lesson 79



to 不定詞の意味上の主語 (2)

前のレッスンで学習した「to 不定詞の意味上の主語」(下記の表では<S>と表記)は to 不定詞の全ての用法 (= 名詞用法、形容詞用法、副詞用法) で用いられます。

名詞用法	
For <S> to Vb is ...	(<S> が V することは…だ)
It is ... for <S> to Vb.	(<S> が V することは…だ)
動詞 for <S> to Vb	(<S> が V することを<動詞>する)
形容詞用法	
名詞 for <S> to Vb	(<S> が V する<名詞>)
副詞用法	
in order for <S> to Vb	(<S> が V するために)
形容詞/副詞 enough for <S> to Vb	(<S> が V するのに十分<形容詞/副詞>)
enough 名詞 for <S> to Vb	(<S> が V するのに十分な<名詞>)
too ... for <S> to Vb	(<S> が V するには…過ぎる)
形容詞 for <S> to Vb	(<S> が V するには<形容詞>だ)

「意味上の主語」に注意しながら、次の例文を読んでください。

① It's natural for teenagers to seek freedom.

⇒ それは自然だ・十代の若者が・求めることは・自由を。

→ 十代の若者が自由を求めるのは自然なことです。

② When is the best time for couples to travel to Japan?

⇒ いつが・ですか?・最も良い時・カップルが・旅行するのに・日本へ。

→ カップルが日本に旅行するのに一番良い時期はいつですか?

* to travel to Japan は形容詞用法で名詞 time を修飾しています。

③ Is there enough room for everybody to ride comfortably?

⇒ ありますか?・十分なスペースが・全員が・乗って移動するのに・心地よく。

→ 全員が楽に乗れるだけのスペースはあるの?

* enough は名詞の room を修飾しています。

④ The bottle's lid was too tight for Ben to open.

⇒ 瓶の蓋はきつすぎた・Ben が・開けるには。

→ 瓶の蓋は Ben が開けられないほどきつく閉まっていた。

* 他動詞 open の目的語は The bottle's lid です (この用法は Lesson 76)。

⑤ "Everything will turn out fine." "That's easy for you to say."

⇒ 「全ては(将来)判明する・良いと」「それは簡単だ・君が・言うのが」

→ 「万事うまくいってば」「君がそう言うのは簡単さ」

* 他動詞 say の目的語は That です (この用法は Lesson 76)。

●● NOTE 意味上の主語を示す for が不要な場合

表の「動詞 for <S> to Vb」の形になるのは、「動詞」が wait (Lesson 78 ②) と arrange (Lesson 78 ④) の場合ぐらいです。通常は、次の例文の enable のように、for を置かずに「動詞 <S> to Vb」の形にします (Lesson 49, 50 の表)。

⑥ This scholarship enabled for Joe to continue his education.

⇒ この奨学金は可能にした・Joe が・続けるのを・彼の教育を。

→ この奨学金のおかげで、Joe は教育を受け続けることができた。

●● VOCABULARY

☐ natural [nætʃərəl]	☐ 形 自然な、当然な、自然の、天然の
☐ teenager [tiːneɪdʒər]	☐ 名 十代 (13 歳～19 歳まで) の若者
☐ seek [si:k]	☐ 動 …を (探し) 求める
☐ freedom [friːdəm]	☐ 名 自由、解放 (☐ free 自由な、束縛のない)
☐ couple [kʌpl]	☐ 名 男女のカップル、夫婦
☐ room [ru:m]	☐ 名 ((不可算)) スペース、余地、((可算)) 部屋
☐ everybody [ˈevribɒdi -bɒdi]	☐ 代 誰もがみな、全員 (☐ everyone)
☐ ride [raɪd]	☐ 動 (乗り物に) 乗って移動する、…に乗って移動する ☐ 名 (乗り物に乗っての) 移動
☐ comfortably [kʌmfərtəbli]	☐ 副 快適に、楽に (☐ comfortable 快適な、楽な)
☐ bottle [bɒtl bɔ:tl]	☐ 名 瓶 (びん)、ボトル
☐ lid [lɪd]	☐ 名 蓋 (け)
☐ tight [taɪt]	☐ 形 (隙間が無く) きつい、ぴんと張った (☐ loose [lu:s] ゆるい)
☐ turn out (to be) …	☐ 動 結局…だと判明する [わかる]
☐ scholarship [ˈskɒləʃɪp skɒlə-]	☐ 名 奨学金 (☐ scholar [ˈskɒlər skɒlə] 学者)
☐ enable … to Vb [ɪneɪbl]	☐ 動 …がVするのを可能にする
☐ continue [kənˈtɪnju:]	☐ 動 …を続ける、続く、継続する
☐ education [ˌedʒəˈkeɪʃn ˌedʒu-]	☐ 名 教育 (☐ educational 教育の)

Lesson 80

👉 to 不定詞の進行形、受動態、完了形

「to 動詞の原形」には「**進行形**」「**受動態**」「**完了形**」があります。次の表で形と意味を確認してください。

進行形	to be Ving	「Vしている」という 進行形 の意味を表す。
受動態	to be Vp.p.	「Vされる」「Vされている」という 受身 の意味を表す。
完了形	to have Vp.p.	「(以前に) Vした」という、 述語動詞より前 のことか、 「Vしてしまっている」「Vしたことがある」など、 述語動詞までの 完了・結果・継続・経験 を表す。

「**進行形**」の例を見てみましょう。

① Everyone seems to be having fun.

⇒ 全員が様子だ・経験している・楽しさを。

→ 全員が楽しんでいる様子だ。

* Everyone は三人称の単数形なので seem には三単現の s がつきます。

「**受動態**」は Lesson 60 ⑤、Lesson 64 の④～⑥、Lesson 72 ③で確認してください。
「**完了形**」は通常、**述語動詞より前**のことを表します。次の②と③を比較してみましょう。

② Nick is said to *be* a man of courage and conviction.

現在 is (現在) と同じなので「現在」

⇒ Nickは言われている・であると・男・勇気の・そして・信念の

→ Nick は勇気と信念の人だと言われている。

③ His grandfather is said to *have been* a man of wisdom.

現在 is (現在)より前なので「過去」

⇒ 彼の祖父は言われている・であったと・男・知恵の。

→ 彼の祖父は知恵者であったと言われている。

例文②の to be は完了形ではないので述語動詞 is と同じ時、つまり「現在」を表しますが、③の to have been は完了形なので、述語動詞 is より前、すなわち「過去」を表します。次の④は to have been が完了形で述語動詞 claimed が過去形なので、to have been は claimed よりさらに前のこと（＝大過去）を表します。

④ Hank claimed to have been a friend of Elvis Presley's.

過去 claimed (過去) より前なので「大過去」

⇒ Hank は主張していた・(以前に)であったと・友人・エルビスプレスリーの。

→ Hank は、自分はエルビス・プレスリーの友人だった、と言っていた。

また、「完了形」を「受動態」にする場合は「to have been Vp.p.」にします。

⑤ This portrait is thought to have been painted around 1860.

現在 is (現在) より前なので「過去」

⇒ この肖像画は考えられている・描かれたと・1860年頃に。

→ この肖像画は1860年頃に描かれたと考えられています。

「完了形」は述語動詞の時点までの「完了・結果・継続・経験」も表します。次の⑥は結果を、⑦は経験を表しています。

⑥ I seem to have lost my way. Where am I on this map?

現在 seem (現在) の時点での結果

⇒ 私は思える・見失ったと・自分の道を。どこに・いますか？・私は・この地図上で。

→ 道に迷ってしまったみたいなのですが、ここはこの地図のどこでしょうか？

⑦ Betty pretended to have read Shakespeare's "Macbeth."

過去 pretended (過去) の時点までの経験

⇒ Betty はふりをした・(以前に) 読んだことがある・シェークスピアの「マクベス」を。

→ Betty はシェークスピアの「マクベス」を読んだことがあるふりをした。

VOCABULARY

- | | |
|---|---|
| ☐ have fun [fʌn] | ☐ 楽しい時を過ごす (*この have (…を経験する) は動作動詞なので例文①のように進行形が可能 (Lesson 22 の表と (注) の 2 番目を参照)) |
| ☐ be said to Vb [sed] | ☐ V だと言われている |
| ☐ courage [kʌrɪdʒ kʌr-] | ☐ 勇気、勇敢、度胸 |
| ☐ conviction [kən'vɪkʃn] | ☐ 信念、確信、有罪判決 |
| ☐ grandfather [grændfɑːðər] | ☐ 祖父 |
| ☐ wisdom [wɪzdəm] | ☐ 知恵、英知、賢さ (形 wise 賢い) |
| ☐ claim to Vb [kleɪm] | ☐ (証拠・根拠なしに) V だと言う [主張する] |
| ☐ a friend of 独立所有格 | ☐ <独立所有格>の友人の一人 (*独立所有格とは mine, yours, Tom's など。R5 を参照) |
| ☐ portrait [pɔːtrɪt, -reɪt] | ☐ 肖像画、肖像 [人物] 写真、描写 |
| ☐ be thought to Vb [θɔ:t] | ☐ V だと考えられている (* Lesson 63 の表) |
| ☐ paint [peɪnt] | ☐ …を (絵の具で) 描く、…にペンキを塗る |
| ☐ around | ☐ 前 …前後、およそ、約 (同 about) |
| ☐ lose one's way | ☐ 名 道に迷う (同 get lost) |
| ☐ Where am I? | ☐ 慣 ここはどこですか? (*尋ねた相手も含めて「Where are we?」としてもよい) |
| ☐ pretend to Vb [prɪtend] | ☐ 動 V であるふりをする、V であることを装う |

Lesson 81

👉 to 不定詞の否定形

「to 動詞の原形」を「…しない」という「否定形」にする場合は、not (…ない) や never (一度も[決して]…ない) を to の「前」に置いて「**not to** 動詞の原形」「**never to** 動詞の原形」とします (never の場合は「**to never** 動詞の原形」とすることもあります)。

この否定形は、to 不定詞の全ての用法 (= 名詞用法、形容詞用法、副詞用法) で用いられます。それぞれ例文で確認しましょう。

① Bill decided **not to purchase** any more stock.

⇒ Bill は決めた・購入しないことを・いかなるそれ以上の株も。

➔ Bill はもうそれ以上株を購入しないことに決めた。

* to purchase は decided の目的語に置かれた名詞用法です (Lesson 67 ④)。

② Ben, I told you **not to draw** on the couch.

⇒ Ben・私は言った・あなたに・絵を描かないように・長椅子に。

➔ Ben、ソファーに絵を描いちゃだめって言ったでしょ。

③ My philosophy is **never to compare** myself with others.

My philosophy is to never compare myself with others.

⇒ 私の信条は・である・決して比べないこと・私自身を・他の人達と。

➔ 私の信条は、決して自分を人と比べないことです。

* be 動詞の補語に to 不定詞 (名詞用法) が置かれています。

④ Mike, be careful **not to slip** and fall!

⇒ Mike・注意なさい・しないように・滑るのを・そして・転ぶのを。

➔ Mike、滑って転ばないように注意するのよ!

* この to 不定詞は副詞用法の「目的」の意味です。目的の意味で否定形にできるのは、be careful not to Vb と take care not to Vb (共に「Vしないように気をつける」) や in order not to Vb と so as not to Vb (共に「Vしないように」) など一部の表現に限られます。

前のレッスンの③～⑦で学習した「完了形」にも「否定形」があります。

⑤ I'm so sorry not to have kept in touch.

⇒ 私はとても申し訳ない・しないで・(今まで)い続けることを・連絡をとって。

→ 今まで連絡を取らなくて本当にすみません。

* この to 不定詞は形容詞 sorry の原因・理由を表しています (Lesson 74 の表)。

* so は very よりも感情が強く表現されたことばです。

● VOCABULARY

☐ **decide to Vb** [disáid]

☐ **purchase** [pʌ:rtʃəs]

☐ **any more** ...

☐ **stock** [sták | stók]

☐ **tell ... to Vb**

☐ **draw** [drɔ:]

☐ **couch** [káutʃ]

☐ **philosophy** [filásəfi]

☐ **compare ... with** ~
[kəmpéər]

☐ **others** [áðə:z]

☐ **be careful not to Vb**

☐ **slip**

☐ **fall** [fɔ:l]

☐ **I'm sorry to Vb.**
[sári, sɔ:ri | sóri]

☐ **keep in touch (with ...)**
[táitʃ]

☐ **動** Vすることに決める (* Lesson 68 の表)

☐ **動** ...を購入する ☐ **名** 購入、購入品

☐ **名** いかなるこれ[それ]以上の... (も)

☐ **名** 株、株式、蓄え、在庫 (☐ **同** **share** [ʃéər] 株式)

☐ **動** ...にVするように言う [指示する]
(* Lesson 49 の表を参照)

☐ **動** <線>を引く、<線画>を描く、線画を描く
(* 「絵の具やペンキで描く」場合は paint、
「文字を書く」場合は write を用いる)

☐ **名** 長椅子、ソファ (* 背もたれと肘掛けの付いた、二人以上が座れる椅子を指す)

☐ **名** 哲学、信条 (☐ **名** **philosopher** [filásəfər] 哲学者)

☐ **動** ...を〜と比較する (☐ **同** **compare ... to** ~)

☐ **名** **comparison** [kəmpéarɪsn] 比較

☐ **代** 他のもの [人達] (* 複数のものや人を指す。
単数の「他のもの [人]」は another とする)

☐ **動** Vしないように気をつける

☐ **動** (人が) 滑る、足を滑らす (☐ **動** **skid** (車が) スリップする)

☐ **動** 倒れる、落ちる、下落する ☐ **名** 落下、下落

☐ **慣** Vしてすみません。Vして申し訳なく思う。

☐ **動** (...と) 連絡を保つ [取り続ける] (☐ **同** **stay in touch (with ...)**)

Chapter 8

単語・熟語数：100

文法のテーマ：動名詞

「名詞」の働きをする「動詞のing形」を「動名詞」と呼びます。

動名詞は、to不定詞の名詞用法と同様、他動詞の目的語、be動詞の補語、主語などで用いますが、さらに、前置詞の目的語でも用います。「一語」の動名詞の中には、(形容詞の修飾を受けたり、後ろの名詞を修飾するなど) 普通の名詞のように扱われるものもあります。

Lesson 82

👉 動名詞の基本

「…すること」という意味で「名詞」の働きをする「動詞の ing 形」を「動名詞」と呼びます。動名詞は、to 不定詞の名詞用法と似た働きをします。to 不定詞の復習を兼ねて、次の5つの動詞(句)を2通りの「名詞(句)」に変えてみましょう。

動詞	名詞	
	to 不定詞	動名詞
teach (教える)	to teach	teaching
	(教えること)	
knit (編み物をする)	to knit	knitting
	(編み物をする事)	
sew (縫い物をする)	to sew	sewing
	(縫い物をする事)	
learn English (英語を学ぶ)	to learn English	learning English
	(英語を学ぶこと)	
make effort (努力をする)	to make effort	making effort
	(努力すること)	

「動名詞」は「名詞」なので、次のような「名詞」が置かれる場所で使います。

① 主語	<u>Ving (...)</u> V ... S
② be 動詞の補語	S be 動詞 <u>Ving (...)</u> . C
③ 他動詞の目的語	S Vt <u>Ving (...)</u> . O
④ 前置詞の目的語	前置詞 <u>Ving (...)</u> O

(注)「動名詞」は「to 不定詞の名詞用法」とは異なり、④の「前置詞の目的語」で用いることができる点に注意。

動名詞が表の4つの場所で用いられている例を見てみましょう。

まずは、「主語」に置かれている動名詞です。主語の動名詞はto不定詞に置き換えが可能です。主語にto不定詞を置くと堅い言い方になるので、一般的には動名詞を用います。動名詞は、to不定詞と同様、「三人称単数」の名詞として扱うので、文が「現在形」の場合は、次のように動詞に「三単現のs」を付けます。

① Teaching requires knowledge and commitment.

S V

⇒ 教えることは必要とする・知識と献身を。

→ 人に教えるためには知識と献身が必要です。

* 主語が、Teaching children (子供に教えること) のように複数名詞を含む動名詞の句であっても、三人称単数の名詞として扱うので、動詞は requires にします。

次は、「be 動詞の補語」に動名詞を置いた例です。この場合も、to不定詞に置き換える(例文②では to knit、to sew とする)ことができますが、動名詞よりもto不定詞の方が堅い言い方になります。

② Betty's favorite pastimes are knitting and sewing.

C1 C2

⇒ Betty の最もお気に入りの娯楽は・編み物をする・そして・縫い物をする。

→ Betty の一番の気晴らしは編み物と縫い物です。

次は、「他動詞の目的語」に動名詞を置いた例です。

③ Mr. Sato, take it easy and enjoy learning English.

Vt O

⇒ Sato さん・気楽に構えてください・そして・楽しんでください・学習することを・英語を。

→ Sato さん、肩の力を抜いて英語の学習を楽しんでください。

動詞の目的語には名詞を置くので、動名詞 (learning) と to 不定詞 (to learn) のどちらを置いてもよさそうですが、enjoy の場合は動名詞しか置けません(この点については次のレッスンで詳しく説明します)。

最後は、「前置詞の目的語」に動名詞を置いた例です（「to不定詞」を前置詞の目的語に置くことはできません）。

④ **Joe wishes to make money without making much effort.**

前置詞

0

⇒ Joe は望んでいる・稼ぐことを・お金を・なしに・すること・多くの努力を。

→ Joe はあまり努力をせずにお金を稼ぎたいと思っている。

* making を to make にすることはできません。

●● VOCABULARY

☐ **require** [rikwáíər]

☐ 動 …を必要とする、…を要求する

(☐ **requirement** 要求、要求事項)

☐ **knowledge** [nálidʒ nól-]

☐ 名 知っていること、知識 (動 **know** 知っている)

☐ **commitment**

☐ 名 深い関与、傾倒、肩入れ、強い熱意、献身

[kəmítmənt]

(☐ **committed** [kəmitid] 傾倒した、熱心な)

☐ **favorite** [féivərit]

☐ 形 最もお気に入りの (*一つとは限らない)

☐ **pastime** [pæstáim]

☐ 名 娯楽、気晴らし

☐ **knit** [nit]

☐ 動 …を編む、編み物をする

☐ **sew** [səu]

☐ 動 …を縫う [縫い付ける]、縫い物をする

☐ **take it easy**

☐ 動 気楽に構える、無理をしない、くつろぐ

☐ **wish to Vb**

☐ 動 Vしたい (* want to Vb より改まった表現)

☐ **make money**

☐ 動 お金を稼ぐ、お金をもうける

☐ **make effort** [éfərt]

☐ 動 努力をする (☐ **effort** 努力)

Lesson 83

👉 動名詞：他動詞の目的語（1）

他動詞の中には、目的語に「動名詞」と「to 不定詞」の両方をとれるものがあります。例えば、like や continue は2通りの言い方ができます。

① Mr. Sato doesn't like speaking in public.

Mr. Sato doesn't like to speak in public.

Vt O

⇒ Sato さんは好きではない・話すことが・人前で。

→ Sato さんは人前で話をするのが好きではない。

② Despite such criticism, her books continued to sell well.

Despite such criticism, her books continued selling well.

Vt O

⇒ にもかかわらず・そんな批判・彼女の本は続けた・売れることを・よく。

→ そんな批判はあったが、彼女の本は良く売れ続けた。

このように、目的語に「動名詞」と「to 不定詞」の両方をとり、意味に違いがない他動詞には次のようなものがあります。

like	(…するのが好きだ)	love	(…するのが大好きだ)
hate	(…するのが嫌だ)	prefer	(…するのをより好む)
begin / start	(…し始める)	continue	(…し続ける)

(注) would like to Vb (V したい)、would love to Vb (とてもV したい)、would prefer to Vb (むしろV したい) の「to Vb」は「動名詞」にはできません。

(注) begin より start の方がくだけた表現です。会話では start がよく用いられます。

(注) continue は動名詞よりも to 不定詞の方がよく用いられます。

これらの動詞は目的語に動名詞と to 不定詞のどちらを用いても構いませんが、次のような現在〔過去〕**進行形の文**では、動名詞にすると動詞の ing 形が連続して聞こえが悪いので、**to 不定詞**を用いる方が自然です。

③ I feel like I'm starting to like this job.

Vt liking
O

⇒ 私は感じる・以下のように・私が始めていると・好きになることを・この仕事を。
→ この仕事が好きになってきたような気がします。

また、forget と remember は目的語に「動名詞」と「to 不定詞」の両方を取りますが、意味が異なります。「動名詞」は「(過去に) したこと」を表し、「to 不定詞」は「(これから) すること」を表します。

forget Ving	(V した (時の) ことを忘れる)
forget to Vb	(V することを忘れる、V し忘れる)
remember Ving	(V したことを覚えている)
remember to Vb	(V することを覚えている、忘れず V する)

次の2つの例文の「動名詞」は「(過去に) したこと」を表しています。

④ I'll never forget meeting Cindy for the first time.

Vt O

⇒ 私は(この先)決して忘れない・会った(時の) ことを・Cindy に・初めて。
→ 初めて Cindy と会った時のことは(この先も)決して忘れないよ。

⑤ I remember reading about it but can't recall the details.

Vt O

⇒ 私は覚えている・読んだことを・それについて・しかし・思い出せない・詳細を。
→ それについては読んだ覚えがあるけど、詳しいことは思い出せない。

次の2つの例文の「to 不定詞」は「(これから) すること」を表しています。

⑥ Don't forget to switch off your mobile phone.

Vt O

⇒ 忘れないでください・スイッチを切ることを・あなたの携帯電話の。
→ 携帯電話のスイッチを切るのを忘れないようにしてください。

⑦ Remember to switch off your cell phone.

Vt O

⇒ 覚えておいてください・スイッチを切ることを・あなたの携帯電話の。
→ 携帯電話のスイッチを切るのを忘れないようにしてください。
* この文は例文⑥と同じ意味です(「Don't forget to Vb.」と「Remember to Vb.」は同じ意味です)。

●● VOCABULARY

- ☐ **in public** [pʌblik]
- ☐ **despite** [dɪspáit]
- ☐ **criticism** [krítəsɪzəm]
- ☐ **sell**
- ☐ **well**
- ☐ **feel like** ~

- ☐ **for the first time**
- ☐ **recall** [rɪkɔ:l]
- ☐ **detail** [dɪtɛɪl, dɪ:teɪl]
- ☐ **switch ... off** [swɪtʃ]
- ☐ **mobile phone** [məʊbəl fəʊn]
- ☐ **cell phone / cellphone** [sɛl fəʊn]

- ☐ 副 人前で、公衆の面前で (反 **in private** 内々に)
- ☐ 前 ...にもかかわらず (同 **in spite of**)
- ☐ 名 批判 (動 **criticize** [krítəsaɪz] ...を批判する)
- ☐ 動 ...を売る、売れる (*例文②では自動詞)
- ☐ 副 上手に、うまく、十分に、よく、かなり
- ☐ 動 ~のような気がする (*この表現の like は前置詞と接続詞の2通りで使われる。例文③の like は接続詞で後ろに文が続いている)
- ☐ 副 初めて
- ☐ 動 ...を思い出す、...をリコール [回収] する
- ☐ 名 詳細、細部
- ☐ 動 ...のスイッチ [電源] を切る (同 **turn ... off**)
- ☐ 名 携帯電話
- ☐ 名 携帯電話 (同 **cellular phone**)

例文に登場する主なキャラクター (18)



Mr. Sato

アジアの大手自動車メーカーの技術者。英語が不得意だが、海外転勤の辞令が下る。現地で **Pat** の英語教室に通う。

Lesson 84

👉 動名詞：他動詞の目的語（2）

前のレッスンでは、「目的語に動名詞と to 不定詞の両方をとる動詞」について学びましたが、このレッスンでは「目的語に**動名詞はとるが to 不定詞はとらない動詞**」について学習します。このタイプで特によく用いられるのは次の動詞です。

enjoy	Ving	(V することを楽しむ)
finish	Ving	(V することを終える)
stop	Ving	(V することをやめる [中断する])
quit	Ving	(V することをやめる)
give up	Ving	(V することをあきらめる)
avoid	Ving	(V するのを避ける)
mind	Ving	(V することに差し障りがある)

(注) mind は否定文か疑問文で用いるのが一般的です。

動名詞は現在 [過去] 進行形と同じ形をしているので、現在 [過去] 進行形がもつ「**目下進行中のこと**」「**既にしていること**」という意味合いを含みます。例えば、enjoy Ving (目下進行中のことを楽しむ) や finish Ving (既にしていることを終える) がその例です。これに対して、目的語に置かれる to 不定詞は「**これからすること**」という意味合いを含みます (Lesson 68 の表)。この区別が全ての動詞と目的語に当てはまるわけではありませんが、目的語にどちらを置くかを判断する一つの手がかりになります。それでは、前出の表の例文を見てみましょう。

① "I haven't finished talking yet." "Well, I'm finished listening."

Vt to talk
O

Vt to listen
O

⇒ 「私は終えていない・話すことを・まだ」「そうかい・僕は終えている・聞くことを」

→ 「私の話はまだ終わってないわ」「そう、僕の方は聞き終わってるけど」

* I'm finished listening と I've finished listening の違いは VOCABULARY 欄を参照。

② It's time to stop talking and start acting.

It's time to quit talking and start acting.

Vt O

⇒ 今は時です・やめる・話し合うことを・そして・始める・行動することを。

→ 今はもう話し合いは終わりにして行動を開始する時です。

* to quit talking and start acting の to 不定詞は形容詞用法で time を修飾。

* start acting を start to act にすることもできますが、前が talking なので acting にして Ving で揃えた方が自然です。

③ Why not give up smoking for a month?

Vt O

⇒ してみても?・やめることを・タバコを吸うことを・1ヶ月の間。

→ 1ヶ月間タバコをやめてみたら?

④ Follow these instructions to avoid injuring yourself.

Vt O

⇒ 従ってください・これらの指示に・避けるために・傷つけることを・あなた自身を。

→ けがをしないようにするために、これらの指示に従ってください。

* この「to avoid Ving」は「Vしないように(するために)」という否定形の目的(in order not to Vb, so as not to Vb と同じ意味)を表すのによく用いられます。

⑤ I don't mind vacuuming, but I hate cleaning the bathroom.

Vt O

⇒ 私は嫌だと思わない・掃除機をかけることを・しかし・私は嫌だと思ふ・掃除することを・バスルームを。

→ 掃除機をかけるのはいいんだけど、バスルームの掃除が嫌だね。

* cleaning the bathroom は hate の目的語です (Lesson 83 の1 番目の表)。

●● VOCABULARY

- ☐ **well** [wél] 間 ((話のつなぎとして)) ええっと、さて、そうかい
- ☐ **be finished Ving** 動 Vし終わっている (* have finished Ving は「終わった」という動作に、be finished Ving は「終わっている」という状態に重点がある)
[fɪnɪʃt]
- ☐ **It is time to Vb.** 慣 今 [現在] はVする時間 [時] だ。
- ☐ **talk** [tɔ:k] 動 (お互いに) 話す、話し合いをする、協議をする
[名] 話 (のやりとり)、会話、会談、交渉
- ☐ **act** [ækt] 動 行動する、振る舞う [名] 行為、行動
- ☐ **Why not Vb?** 慣 Vするというのは[Vしてみても] どうですか?
- ☐ **smoke** [smóuk] 動 喫煙する、煙を出す [名] 煙
- ☐ **follow** [fólou | fɔ:l] 動 …の後についていく、<指示など>に従う
- ☐ **instruction** [instrákʃən] [名] 指示、指図、命令 (動 instruct …に指示する)
- ☐ **injure** [ɪndʒər] 動 …を傷つける、…を痛める (同 hurt [hɜ:t])
- ☐ **vacuum** [vækjuəm] 動 (部屋などに) 掃除機をかける [名] 真空、空虚
- ☐ **hate Ving** [héit] 動 Vするのが嫌だ (同 hate to Vb)
- ☐ **clean** [kli:n] 動 …を掃除 [洗浄] する、…をきれいにする
- ☐ **bathroom** [bæθrú:m] [名] トイレの付いた浴室、((米)) トイレ、お手洗い

Lesson 85

👉 **動名詞：他動詞の目的語（３）**

stop と **try** は共に他動詞として目的語に「動名詞」をとることができます。また、後ろに to 不定詞をとることもできますが、その場合は自動詞であり、to 不定詞は副詞用法（「目的」の意味）です。次の表と例文で確認しましょう。

stop Ving	(Vすることをやめる [中断する])
stop to Vb	(Vするために立ち止まる [作業を中断する])
try Ving	(Vすることを試す、試しにVしてみる)
try to Vb	(Vするために頑張る、Vしようと努める)

- ① Every half hour Ben stopped swimming and took a rest.

 $V_t = 0$

⇒ 30分ごとに・Ben はやめた・泳ぐことを・そして・取った・休憩を

→ Ben は 30 分ごとに泳ぐのをやめて休憩を取った。

- ② Every half hour Joe stopped to check his email.

Vi 副詞句（目的の用法）

⇒ 30分毎に・Joeは作業を中断した・チェックするために・彼のメールを。

→ Joe は30分ごとにメールをチェックするために作業を中断した。

- ③ Bob tried pushing the button but it didn't respond.

 $V_t = 0$

⇒ Bob は試してみた・押すことを・ボタンを・しかし・それは反応しなかった。

→ Bob は試しにボタンを押してみたが、何も反応しなかった。

- ④ Andy tried to push the door open but it was stuck.

Vi 副詞句 (目的の用法)

⇒ Andy は頑張った・押そうと・ドアを・開くように・しかし・それは固まっていた。

→ Andy はそのドアを押して開けようとしたが、固まっていた。

③の tried pushing ... は「実際に行ったこと」を、④の tried to push ... は「行おうとしたこと」を述べている点に注意してください。

また、**need** (…を必要とする) は目的語に to 不定詞と動名詞の両方をとりますが、to 不定詞をとる場合は I need to do this. のように to 不定詞が完結するのに対し、動名詞の場合はその動詞が「他動詞」で「目的語」が欠落する形になります (そして文の「主語」が他動詞の目的語に当たります。

主語 need Ving (＜主語＞はVする必要がある)

目的語

(注) Ving には do (…を行う) や, fix, repair (…を修理する), wash (洗う), clean (…をきれいにする) のような「改善」を表す動詞を置くのが一般的です。この「need Ving」はくだけた言い方なので正式な文書では用いない方が無難です。

(注) 「need Ving」は「need to be Vp.p.」に言い換えが可能です。

⑤ Fred, I think your pants need ironing.

目的語

⇒ Fred・私は思う・あなたのズボンは必要だと・アイロンをかけることが。

→ Fred、あなたのズボンはアイロンをかけた方がいいと思うけど。

* 他動詞 iron (…にアイロンをかける) の目的語は主語の your pants です。

* need ironing を need to be ironed とすることもできます。

Ch.
8

●● VOCABULARY

□ **every** 数詞＋名詞

副 <数詞＋時間>ごとに (*例文①の Every half hour は Every thirty minutesとしても同じ)

□ **take a rest**

動 休息 [休憩] をとる (同 **take a break**)

□ **check**

動 (…を) チェック [確認、検査] する 名 確認、検査

□ **button** [bʌtən]

名 ボタン (*発音に注意)

□ **respond (to …)**

動 (…に) 反応 [返答、返事、回答] する

[rɪspənd | -spɒnd]

(名 **response** [rɪspɒns | -spɒns] 反応、返答、返事)

□ **push … open**

動 …を押して開ける (動 **pull … open** …を引いて開ける *第5文型の用法で open は形容詞)

□ **stuck** [stʌk]

形 身動きが取れない、固く閉まっている

□ **pants** [pænts]

名 ((米)) ズボン (同 ((英)) **trousers** [traʊnzəz])

□ **iron** [aɪərn]

動 …にアイロンをかける、アイロンをかける

名 鉄、アイロン、(ゴルフの) アイアン

Lesson 86

👉 動名詞：前置詞の目的語

動名詞は「前置詞の目的語」でも用いられます (Lesson 82 の表④)。次の例文の動名詞 calling は、前置詞 for の目的語で用いられています。

① Sorry for calling so late. Did I wake you up?

⇒ 申し訳ない・電話をかけていることで・こんなに遅くに。私はしましたか？・目覚めさせることを・あなたを。

→ こんな遅くに電話してごめんね。起こしちゃった？

* Sorry の前には I'm が省略されています。for は理由を表しています。

動名詞は、before、after、since、until のような「時の前置詞」の目的語でよく用いられます（動名詞を「…する」「…した」と訳せば意味がうまく通ります）。before と since の例を見てみましょう。

② Before meeting in person, we exchanged photos.

⇒ 会う前に・直接・私達は交換した・写真を。

→ 私達は直接会う前に写真の交換をしていました。

③ Since arriving in Miami, Bob has changed jobs five times.

⇒ 到着して以来・マイアミに・Bob は（現在までに）変えている・仕事を・5回。

→ マイアミに来て以来、Bob は5回職を変えている。

worth (…の価値がある) も前置詞で、目的語に動名詞をとることができますが、その場合は、「動名詞になっている動詞が他動詞で、その目的語が主語」という関係にします（この関係は Lesson 85 ⑤ で学習した need と同じです）。次の例文で、動詞 consider (…を検討する) の目的語が主語の This proposal になっている点に注意してください。

④ This proposal is worth considering.

目的語 ←

⇒ この提案は・の価値がある・検討すること。

→ この提案は検討に値します。

●● NOTE to 不定詞と間違いやすい to 動名詞

to の後ろの動詞がいつでも「動詞の原形」になるとは限りません。次のような表現の to は「前置詞」なので、後ろには「動名詞」を置きます。

- be used to … (…に慣れている)
 look forward to … (…を楽しみに待つ)
 What do you say to …? (…はどうですか?)

(注) be used to と used to (かつては…した) (Lesson 64 ⑤) の違いに注意。

⑤ Mr. Sato is not used to expressing his feelings.

express

⇒ Sato さんは慣れていない・表現することに・彼の感情を。

→ Sato さんは自分の感情を表現することに慣れていない。

⑥ I'm looking forward to meeting you this Friday.

meet

⇒ 私は楽しみにしている・会うことを・あなたに・この金曜日に。

→ 金曜日にお目にかかれるのを楽しみにしております。

* this Friday の前に on を置く必要はありません (Lesson 2 [NOTE])。

⑦ What do you say to having a drink after work?

have

⇒ 何と・君は言いますか?・飲むことにし・一杯の酒を・仕事の後に。

→ 仕事が終わったら一杯どうだい?

●● VOCABULARY

- | | |
|---|-------------------------|
| ☐ be sorry for … | 動 …を申し訳なく [すまなく] 思う |
| ☐ so | 副 とても、そんなに、こんなに |
| ☐ late [léit] | 副 遅くに、遅くまで 形 遅い、遅刻した |
| ☐ wake … up [wéik] | 動 …の目を醒まさせる、…を起こす |
| ☐ in person [pó:rsn] | 副 本人(達)が直接、(テレビ等ではなく)直接 |

□ **exchange**

[ɪks'tʃeɪndʒ]

□ **photo** [fəʊtəʊ]□ **arrive** [əraɪv]□ **change** 複数名詞□ ... **times**□ **proposal** [prəˈpəʊzəl]□ **worth Ving** [wɜːrθ]□ **consider** [kənsɪdə]□ **express** [ɪksˈpres]□ **feelings** [fiːlɪŋz]□ **have a drink**□ **after work**

動 ...を交換する、...をやり取りする [名] 交換

(※動詞で使う場合は目的語を「複数形」にする)

[名] 写真、フォト (※ photograph の略語)

動 到着する、着く、届く (※自動詞であることに注意)

動 <複数名詞>を変える[換える] (※「別のものに移る」という意味では、change jobs (職を変える)、change seats (席を替える)、change trains (電車を乗り換える) のように目的語を「複数形」にする)

副 ...回、...度、...倍

[名] 提案(書)、申し出 (動) **propose** ...を提案する)形 Vする価値がある (形) **worthwhile** [wɜːrθliwaɪl]価値がある **worthy of** ... [wɜːrði] ...の価値がある)

動 ...を考える、...を考慮[考察、検討] する

動 ...を表現する ([名] **expression** 表現)

[名] ((複数形で)) 感情、気持ち

動 (一杯の) お酒を飲む (※ a drink は必ずしもお酒を指さないが、この表現では「お酒」の意味)

副 仕事を終えた後、就業後 (副) **after school** 放課後)

What do you say to having a drink after work?

have

「お酒を飲む」という動詞の後に「after work」を添えて「仕事が終わった後」の意味で使えます。

Lesson 87

📖 動名詞：受動態と完了形

to不定詞と同様に、動名詞にも「受動態」と「完了形」があります。次の表でto不定詞の場合と比較しながら確認しましょう。

	動名詞	to不定詞
受動態	being Vp.p.	to be Vp.p.
進行形	—	to be Ving
完了形	having Vp.p.	to have Vp.p.

(注) 進行形は「being Ving」で、ingが続き語呂が悪いので避けた方が無難です。

動名詞の「受動態」は「**Vされる** [Vされた] こと」という意味です。

① Max narrowly escaped being run over by Betty's car.

⇒ Max はかろうじて免れた・ひかれることを・Bettyの車によって。

➔ Max はもう少しで Bettyの車にひかれるところだった。

② Ms. Williams prefers being called by her first name.

⇒ Williamsさんはより好む・呼ばれることを・彼女のファーストネームで。

➔ Williamsさんはファーストネームで呼ばれるのをより好む。

* 下線部を to be called とすることも可能です (Lesson 83 の1番目の表)。

動名詞の「完了形」は to不定詞の完了形と同様、「述語動詞の時点より前」のことや、「述語動詞の時点までの完了・結果・継続・経験」を表します。

③ I apologize for having bothered you with this.

現在 apologize (現在) より前なので「過去」

⇒ 私は謝罪します・迷惑をかけたことで・あなたに・これでもって。

➔ この件で迷惑をおかけしたことをお詫びします。

④ Having studied Spanish helped her on her trip to Mexico.

helped (過去) の時点までの経験 過去

⇒ 以前に勉強したこと・スペイン語を・は助けた・彼女を・彼女の旅行で・メキシコへの。

➔ 過去にスペイン語を勉強していたことが、彼女のメキシコ旅行で役に立った。

また、to 不定詞と同様、「完了形」が「受動態」になることもあります。

	動名詞	to 不定詞
完了形の受動態	having been Vp.p.	to have been Vp.p.

⑤ This item shows no signs of having been used.

現在

shows (現在) より前なので「過去」

⇒ この商品は示している・無の形跡を・(以前に)使われたことの。

→ こちらの商品は過去に使用された跡が全くございません。

●● VOCABULARY

- | | |
|---|---|
| ☐ narrowly [næ'rəʊli] | 副 かるうじて、僅差で (形 narrow (幅) 狭い) |
| ☐ escape [ɪ'skeɪp] | 動 逃げる、脱出する、…を逃(れ)れる、…を免れる
名 逃げること、脱出 |
| ☐ run ... over | 動 (車・人が) …をひく |
| ☐ prefer [prɪfə:'r] | 動 …をより好む (*目的語には(代)名詞の他に、to 不定詞や動名詞が置かれる) |
| ☐ call ... by ~ | 動 …を〜で呼ぶ (*例文②は目的語の「…」が主語として文頭に出た受動態) |
| ☐ first name | 名 (姓に対する) 名前 (同 ((米)) given name
名 last name, surname [sɑ:'neɪm], family name 姓) |
| ☐ apologize (for ...)
[ə'pɒlədʒaɪz ə'pɒl-] | 動 (…が理由で、…のことで) 詫げる [謝罪する]
(名 apology [ə'pɒlədʒi ə'pɒl-] 詫び、謝罪) |
| ☐ bother ... (with ~)
[bə'dɜː bə'd-] | 動 (〜でもって) …の邪魔をする、…に迷惑をかける、…を煩わせる、…を困惑 [心配] させる |
| ☐ trip (to ...) | 名 (…への) 遠出 [小旅行、出張] |
| ☐ item [aɪtəm] | 名 項目、品目、(個々の) 商品、アイテム |
| ☐ show signs of ...
[səʊnz] | 動 …の兆候 [兆し、痕跡] がある |

Lesson 88

👉 動名詞：動名詞の意味上の主語

to不定詞に「意味上の主語」を置くことができるように (Lesson 78, 79)、動名詞にも「意味上の主語」を置くことがあります。「動名詞の意味上の主語」は、「名詞」なら**目的格**にし、代名詞なら**目的格か所有格**にして、動名詞の**前**に置きます (目的格は日常的な言い方で、所有格は堅い言い方です)。また、「無生物」の場合は、そのままの形 (「目的格」と同じ) にします。次の表で確認しましょう。

意味上の主語の例	
人	Mike my son
	me / my you / your him / his
無生物	that it the news

動名詞
(Ving ...)

例えば、「私がそう言うこと」なら「me saying so」か「my saying so」(堅い言い方) とし、「Bob が人を傷つけること」なら「Bob hurting anyone」とします。そして、この「意味上の主語 + 動名詞」は「他動詞の目的語」や「前置詞の目的語」で用います。次の①と②は前者の例、③と④は後者の例です。

- ① You were kind of rude, if you don't mind me saying so.

You were kind of rude, if you don't mind my saying so.

Vt O

⇒ 君はちょっと失礼だった・もし・君が気にしないなら・私が・言うことを・そう。

→ ちょっと言わせてもらえば、君はなんか失礼な感じだったよ。

- ② I can't imagine Bob hurting anyone on purpose.

Vt O

⇒ 私はできない・想像することが・Bob が・傷つけることを・いかなる人も・故意に。

→ Bob が故意に誰かを傷つけるなんて想像できないわ。

③ I am tired of my boss yelling at me.

前置詞

0

⇒ 私はうんざりしている・私の上司が・怒鳴ることに・私に向かって。

→ 上司に怒鳴りつけられるのにはうんざりだよ。

④ Sandy can't walk anywhere without people recognizing her.

前置詞

0

⇒ Sandy は歩けない・いかなる所でも・なしには・人々が・気づくこと・彼女に。

→ Sandy はどこへ行っても、すぐに人に気づかれてしまう。

●● VOCABULARY

□ kind of

副 (形容詞や動詞の前に置いて) (口語) (米)

ちょっと、少し、ある程度 (同 **sort of**)

I kind of understand your point. (君の言いたい

ことは少しはわかる) は動詞の前に置いた例)

□ rude [rú:d]

形 失礼 [無礼、不作法] な

□ so

副 ((動詞の後ろで用い)) そのように、そう

□ imagine Ving [imáɪdʒɪn]

動 Vしているところ [姿] を想像する

□ hurt [hɜ:t]

動 …を傷つける、…を害する、(体の部分が) 痛む

□ on purpose [pɔ:psəs]

副 故意 [意図的] に、わざと (名 **purpose** 目的、意図 反 **by accident** 偶然に)

□ be tired of … [táɪərd]

動 …にうんざりしている、…に嫌気がさしている

□ boss [bɔ:s|bɒs]

名 上司、ボス、監督

□ yell (at …) [jel]

動 (…に向かって) 怒鳴る、大声で叫ぶ [わめく]

□ anywhere [enihwɛər]

副 いかなる [どんな] 所でも [所へも]

□ recognize [rɛkəgnáɪz]

動 …が誰 [何] だかわかる、…を認める

Lesson 89

📌 動名詞の否定形

to不定詞の否定形は、not や never を to の「前」に置きますが (Lesson 81)、動名詞の否定形も、動名詞の「前」に not や never を置いて「**not [never]** Ving」とします。次の例文では、「動名詞の否定形」が be 動詞の補語に置かれています。

① Fred, the best thing for your health is not overeating.

- ⇒ Fred・最も良いこと・あなたの健康にとって・は過食しないこと。
- ➔ Fred、あなたの健康に一番良いことは、食べ過ぎないようにすることよ。
- * not overeating を not to overeat とすることもできます。

次の例文では、「動名詞の否定形」が他動詞 regret の目的語に置かれています。

② Now and then, Bob regrets not finishing high school.

- ⇒ 時々・Bob は残念に思う・終えなかったことを・高校を。
- ➔ 時々、Bob は高校を卒業しなかったことを後悔する。
- * regret が目的語に動名詞をとる場合は、Lesson 83 ④⑤の forget、remember と同様に、動名詞が regret より過去の行為を表します。

動名詞が完了形 (having Vp.p.) の場合も not [never] を動名詞の「前」に置いて、「**not [never]** having Vp.p.」とするのが一般的です。

③ Please forgive me for not having written to you sooner.

- ⇒ どうか許してください・私を・手紙を書かなかったことを・あなたに・もっとすぐに。
- ➔ お手紙を差し上げるのが遅くなったことをお許してください。
- * これはフォーマルな文です。I'm sorry for not having written to you sooner. とすれば、少しカジュアルな文になります。

●● VOCABULARY

- ☐ **overeat** [ðu:vəri:t] 動 食べ過ぎる、過食する (* over- は「過度に」という意味。overdo なら「…をやり過ぎる」)
- ☐ **(every) now and then** 副 時々、時折 (同 **sometimes, at times**)
- ☐ **regret Ving** [rigrét] 動 Vした [Vしている] ことを残念に思う [後悔する] (* 「Vした」(過去) か「Vしている」(同時点) かは文脈から判断する)
- ☐ **finish** 学校 動 <学校>を卒業する (同 **complete** [kəmplɪt])
- ☐ **forgive** ... (for ~) 動 (〜のことにに対して) ...を許す
[fərgiv]
- ☐ **write to** ... [raɪt] 動 ...に手紙 [メールなど] を書く (* この write は自動詞)
- ☐ **sooner** [sú:nə] 副 もっとすぐに、もっと早くに (* soon の比較級 同 **earlier**)

Lesson 90

👉 動名詞の形容詞的用法

「一語の動名詞」の中には次の赤字のような使用頻度の高い語があります。

動詞	動名詞
park (駐車する)	parking (駐車すること → 駐車)
drive (運転する)	driving (運転すること → 運転)
smoke (喫煙する)	smoking (喫煙すること → 喫煙)
fish (釣りをする)	fishing (釣りをすること → 釣り)
swim (泳ぐ)	swimming (泳ぐこと → 水泳)
learn (学習する)	learning (学習すること → 学習)

このような使用頻度の高い「一語の動名詞」は普通の名詞と同じように扱います(辞書にはこれらの語は「名詞」として掲載されています)。普通の名詞と同じなので、次のように、**形容詞で修飾**することができます。

illegal parking	(違法な 駐車 → 違法駐車)
drunk driving	(酒に酔った 運転 → 飲酒運転)
passive smoking	(受動的な 喫煙 → 受動喫煙)
lifelong learning	(一生涯の 学習 → 生涯学習)

また、「名詞＋名詞」となる場合に前の名詞が(形容詞的に)後ろの名詞を修飾するように(Lesson 3 [NOTE])、**前の「名詞」が後ろの「動名詞」を修飾**することもできます。

night(time) driving	(夜間 運転)
river fishing	(川 釣り)
street smoking	(路上 喫煙)
language learning	(言語 学習)

逆に、「動名詞」が後ろの「名詞」を修飾することもできます(これを「動名詞の形容詞的用法」と呼びます)。

a parking space	(駐車 スペース)
a driving school	(運転 教習所)

Ch.
8

a fishing boat (釣り船)

a swimming cap (水泳帽)

a learning method (学習法)

(注) 動名詞の形容詞用法は「…のための」という意味で、修飾する名詞の「用途」「目的」を表すのが一般的です。

「動名詞の形容詞的用法」を例文で確認しましょう。

① I would like the non-smoking section, please.

⇒ 私は望む・非喫煙セクションを・どうか(お願いします)。

→ 禁煙席をお願いします。

② The librarian said, "The lending period is two weeks."

⇒ 図書館員は言った・「貸し出し期間は2週間です」。

→ 図書館員は「貸し出し期間は2週間です」と言った。

③ Shipping and handling charges are included in the price.

⇒ 配送と取扱い料金は含まれている・価格の中に。

→ 送料と手数料は価格に含まれています。

* charges の代わりに costs (費用)、fees (料金) を使うこともできます。

●● VOCABULARY

□ would like

□ non- [nɒn | nɒn]

□ librarian [laɪbrəriən]

□ period [pɪəriəd]

□ ship [ʃɪp]

□ handle [hændl]

□ charge [tʃɑːdʒ]

□ include [ɪnklʊd]

慣 …が欲しい、…を希望する

頭 ((名詞や形容詞に付いて)) 非…、不…、無…

名 図書館員、司書

名 期間、周期、時代

動 <商品>を配送する、<物・人>を船で送る

動 …を取り扱う、…を処理する、…に対処する

名 料金、使用料、手数料 動 …を請求する

動 …を含む、…を含める